

平成三十一年度

国語

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があつたら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白のページは、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

省略

省略

省略

(仁田義雄『へもつと知りたい！ 日本語〉辞書には書かれていないことばの話』

二〇〇二年、岩波書店、2〜8ページより作成。)

問一 ―― 部①〜⑧の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 ―― 部のAとFを言い換えなさい。

問三 ―― 部ア「それら」は具体的に何を指しているか、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問四 ―― 部イにおいて、著者が「喜んだり安心したり」する理由を説明しなさい。

問五 ―― 部「正しい文を作り出すにあたっては、文法書に収録されているような一般的な規則だけでは不十分」と著者がいうのはなぜか、五十字以内で説明しなさい。

問六 ―― 部ウとほぼ同じ意味で使われている文を本文中から四十字以内で抜き出しなさい。

問七 「誰々を離縁する」の「を」は、後に続く他の成分や語とどのような関係にあるかを示す働きを持つ、連用修飾関係を示す格助詞です。次の五つの語から、「を」と同じく連用修飾関係を示す格助詞を三つ選んで書きなさい。

に から や で の

問八 ―― 部エに倣って、動詞「働く」と「勤める」の使われ方を説明しなさい。

二 次の文章は、後冷泉天皇の皇后寛子に仕える四条宮下野という女房が清水寺に参詣したときのエピソードです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

内裏うちより夜まかアでて、清水注1に詣イでたるに、かたはらの局注2に、ただ今まで宮注3にさぶらひつる為仲注4が行ひ注5してある。「かく詣でたりと、思ひかけじかし」とて、もろともに詣でたまへる人の、「Aむかし見ける人などの詣であへると思はせて謀らむ」などいひて、人の多く詣でて騒がしきに、書く所もおぼえず暗きに、硯すずりもとめて、あやしき人して、「京より」とてやる。急ぎ出ウでて見るなり。Bあやしあやしとたびたびいふなり。

清水の 騒ぐに影は 見えねども Cむかしに似たる 滝の音かな

宮にまゐりたるに、「清水に詣でたりしに、Dいみじき事こそさぶらへ」とて語るを、人の上になして聞くがをかしけれど、けしきにも出ださEで、まことにをかしがる。「さるにても、誰とかおぼえたまふ」といへば、「それならむと思ふ人のがり、返りごとはつかはしてき」と語る。

E 滝の音も むかし聞きしに 変はらずは 流れて絶えぬ 心とを知れ

誰待ち得て、心得ずと思ふらんとをかし。「返りごとやありし」と問へば、「さぶらひしかど心得ず」といふこそことわりなれ。

(『四条宮下野集』より)

注1 清水……清水寺。観音信仰で有名。寺のすぐそばに滝がある。

注2 かたはらの局……隣の部屋。神仏に詣でる時は、寺社内に小部屋を借りて、一晚ないし数晩、祈ったり経を読んだりするのが普通であった。

注3 宮……後冷泉天皇の皇后、四条宮寛子の御殿。

注4 為仲……橘為仲。この頃は皇后宮大進として、皇后に関する仕事をしており、下野とも親しかったらしい。

注5 行ひ……勤行。経を読むこと。

問一 — 部ア〜エの「で」について、一つだけ文法的な性質が違うものがあります。違うものを記号で答え、品詞名を書きなさい。活用する品詞の場合は活用形を書き、助詞・助動詞の場合はその単語の意味用法を書きなさい。

問二 — 部A「むかし見ける人などの詣であへると思はせて謀らむ」を「見る」の意味に注意して現代日本語に訳しなさい。

問三 — 部B「あやしあやしとたびたびいふなり」を助動詞に注意して現代日本語に訳しなさい。

問四 下野の歌の — 部C「むかしに似たる滝の音」とは何をたとえたものか、
□の□という形で答えなさい。

問五 — 部D「いみじき事こそさぶらへ」とあるが、何が「いみじき事」なのか、本文の内容を五〇字以内でまとめなさい。

問六 — 部Eの為仲の返歌を現代日本語に訳しなさい。

三

次の文章は東晋時代(三二七〜四二〇)の政治家である謝安が、四十歳になってはじめて出仕したときの出来事を記録したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

謝公ノ在ル東山ニ、朝命しばしばくだ屢降レ而不動カ。後出い為リ桓宣武ノ

司馬ト、將ル發セント新亭ヲ、朝士みな咸出デ瞻送セン。高靈ときニたり時為ニ中丞ちうじよう、

亦往また相祖ゆきて。先時そ、多少飲酒ミ、因い倚シ如醉キニ、戲曰レテ、「卿ハ

屢違たがヒ朝旨ニ、高臥かう東山ニ。諸人つねニ每相与言ともニ、「安石不ンバ肯ヒ

出デ、將如蒼生何。さうせい。』今亦蒼生將ル如卿何。セント。」謝笑而

不答ヘ。

(劉義慶『世說新語』より)

注 謝公 …… 謝安のこと。字は安石。高貴な出自で、東山に住みついて俗世間との関わりを絶っていた。

桓宣武 …… 桓温のことで、当時の政府の実力者。

司馬 …… 軍の参謀職。

新亭 …… 当時の首都近郊にあった地名。

瞻送 …… 見送る。

高靈 …… 高崧のこと。当時は中丞(官吏の不正を取り調べる高官)で、謝安より

官位が高い。

祖 …… 見送る。

因倚 …… かこつける。

卿 …… あなた。

朝旨 …… 朝命に同じ。

高臥 …… 出仕せずにひっそり暮らす。

蒼生 …… 人々。

問一 〓部「相」「肯」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい（現代仮名遣いでもよい）。なお、文章中には「相」が複数個ありますが、どれも読み方は同じです。

問二 〓部Aを現代日本語に訳しなさい。このとき、「動」を具体的に訳すこと。

問三 〓部Bのような発言から見て高霊は謝安の態度をどう認識しているか、もつとも適当なものを次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

ア 無責任 イ 貪欲 ウ 非人情 エ 無欲

問四 〓部Cを書き下し文にしなさい。漢字を使わず、すべてひらがなで書くこと（現代仮名遣いでもよい）。なお、返り点・送り仮名は省略してあります。

問五 〓部Dのような態度をなぜとったと考えられるのか、謝安の境遇の変化に注目してわかりやすく説明しなさい。